

環境教育プログラム：「絵本を作ろう」

目的：

- ・自然を体感し、観察する眼を養います。
- ・文章の構成力を養います。
- ・想像力（感性）を高め、発想をカタチにする力を養います。
- ・臨機応変な思考力を養います。
- ・日頃、コンピュータばかり扱っている手や頭、身体にほどよい刺激を与えます。

必要なもの：

- ・メモ帳 ・鉛筆 ・ビニール袋 ・スケッチブック ・糊
- ・メンディングテープ ・絵の具 ・色鉛筆、クレヨン etc.

参加者は、お弁当と水筒を持って参加。山歩きしやすい服装で。

内容：

「森には妖精が棲んでいる。」などと言う人たちがいます。

かたや、日本では長い文章を読んだり、考えたりする人が減っていると言われていました。

森の中を歩いたり、焚き火をしたり、森の中でキャンプしたりして過ごすと、いろんなことを全身で感じます。

そのインスピレーションを“絵本”にしましょう！。

まず、メモ帳とビニール袋を参加者に渡します。参加者は、それとお弁当と水筒を持って、朝から森の中へ入って思い思いの時間を過ごします。（極力、細かい時間管理は行いたくありませんね）

ランチタイムの後はお昼寝。素敵な夢を見ましょう。

決まった時間（例えば、午後3時とか）になったら、集合場所に集合。

参加者のメモ帳には、思い思いのシナリオやキャラクターのイラスト、セリフなどがメモられています。内容はどんなものでもかまいません。もちろん、気に入った森のオブジェがあれば、デッサンも描かれていることでしょう。

他人のモノを見てはいけませんし、たとえ、見たとしても真似をしてはいけませんし、批判もしてはいけません。

ビニール袋の中には、落ち葉などのお気に入りの森の贈り物。これは、絵本の挿し絵として、利用するのです。

真っさらなスケッチブックを一冊、クレヨンや色鉛筆、絵の具とともに、参加者に渡します。

参加者は、自分が森の中で考えたストーリーを頭に描き、スケッチブックに向かって、シナリオの構成やページレイアウトを考え、自分だけの絵本を作ります。他に切り刻んで

もかまわない紙が用意されていれば、飛び出す絵本も作れますね。

ムーミンやスナフキンのような架空のキャラクターがいるかもしれません。実際の生物の細かい描写があるかもしれません。

コンピュータを使ってはいけません。すべて自分の頭と手で作業します。

他の人の作品の制作工程が見えないように、各人離れて作業します。これは、各故人のインスピレーションを大切にするためです。なかなか作業が進まない人は、発想力に乏しい、とか、決断力に欠ける、といった自分の欠点がわかります。

しかし、これは成績を競うカリキュラムではないので、気にせずに作りましょう。

そして、世界に一冊しかない自分の絵本が誕生するのです。